

雑草を抑えて収量も安定 秋まき小麦有機栽培のコツ



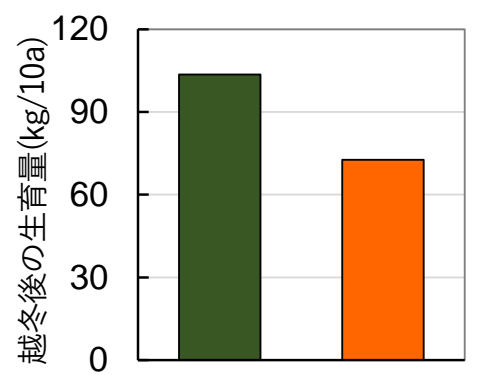
収穫期の小麦と緑肥(シロクローバ)

背景

畑で冬を越す秋まき小麦有機栽培は生産拡大が期待されているが収量性が低いため、安定生産技術が求められている。

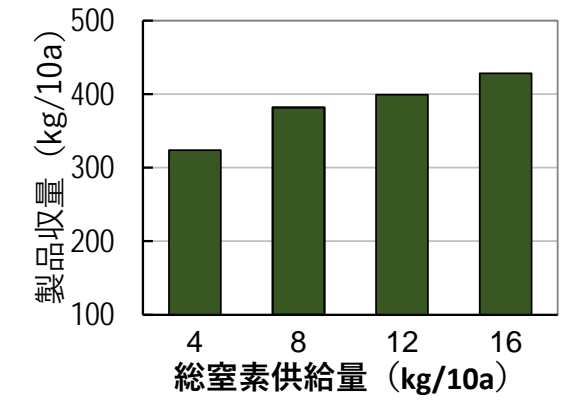
成果

1 早期は種で高い越冬性



越冬後に生き残る小麦は早期は種が多い

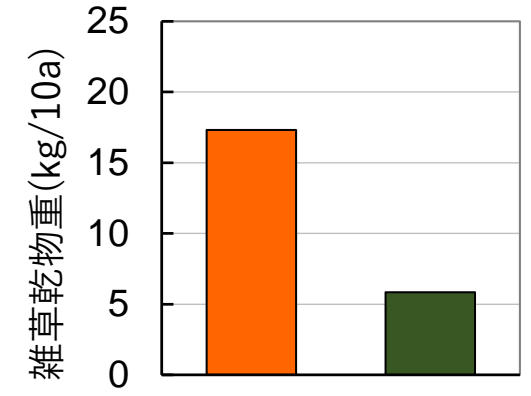
2 窒素供給量の増加で収量増



窒素供給回数・供給量※の増加で収量が最大3割増

※発酵鶏ふんを使用し、は種時に窒素4kg/10aの他に、3月中旬(雪上)に窒素4kg/10aおよび5月下旬(止葉期)に窒素4~8kg/10aを供給

3 間作緑肥で雑草低減



緑肥(シロクローバ)同時は種で雑草量が1/2~1/3に

期待される効果

有機栽培小麦の需給改善・生産者の収益向上へ貢献。有機農業拡大に向けた取り組みへ寄与する。